

親子聖書日課

[日]子供を偶像に捧げた民の行為は、「主が命じたことも、心に思い浮かべたこともない」驚くべき罪でした。人間は悪を行うことに精力的です。この罪に打ち勝つには、主が「こうせよ」と言われたら、自分の思いと違っても、主に従うことです。

[月]人は罪を犯しますが、同時に、悔い改めの恵みが備えられています。しかし、なぜ、悔い改めないのか、神は不思議に思われました。「倒れたら、起き上がる。離れたら、立ち帰る(悔い改める)」ここに福音、「七転び八起」の秘訣があるのです。

[火]エレミヤは厳しい主の審判を告げた時、「打ち砕かれ、嘆き、恐怖に襲われ、昼も夜も泣き」ました。それは真実を語るなければならない伝道者の心の痛み、重荷でもあります。この重荷と心の痛みなくして、主の御用を果たすことはできません。

[水]「主を知ろうとしない」とは、単に知識としてではなく、主と人格的に交わらないことです。教会にいる時だけの信仰は、この世の価値観の流され、結果的に「悪から悪へと進み」「疲れるまで悪事を働く」こととなります。どこでも主を敬おう！

[木]人は目に見える物に頼りがちです。民は主を頼ると言いながら、主ではなく、宗教的儀式(割礼)に頼りました。それは自分を誇ることで、主には喜ばれません。大事なことは、「心に割礼」を受けることです。それは、心から主に頼ることです。

[金]「人はその道を定めえず」とは、本当です。生まれる時も、死ぬ時も、全て神が定めて下さっています。ですから、自分の力に頼らないで、神に任せるなら、悔いのない、最高の人生を送れます。主こそ、人生の名ガイドです。主の言葉に従いましょう。

[土]御言葉に聴従しなければ、主は災いを下して、主に助けを求めても聞かれません。人を生かす御言葉は、それを退ける者には、恐るべき死の言葉になります。自分の都合で割引いてはいけません。「契約の言葉」として、生涯、聴従しましょう。



NO.1903 2025.3/16-22

名前

	聖書	問題	答え
日	エレミヤ 7:16-34	主の命じる道にのみ歩むならば、あなたたちは何を得ますか。	
月	8:1-13	離れて、どうしない者があるうか。	
火	8:14-23	私の目が何となればよいのにと、エレミヤは嘆きましたか。	
水	9:1-15	彼らは、疲れるまで何を働きますか。	
木	9:16-25	何のないイスラエルの家をすべて罰しますか。	
金	10:1-25	人はその道をどうすることができませんか。	
土	11:1-17	今日に至るまで、私の声にごうせよと、主は言ってきましたか。	
		感想と祈りの課題	